

Market Flash

2020年11月12日(木)

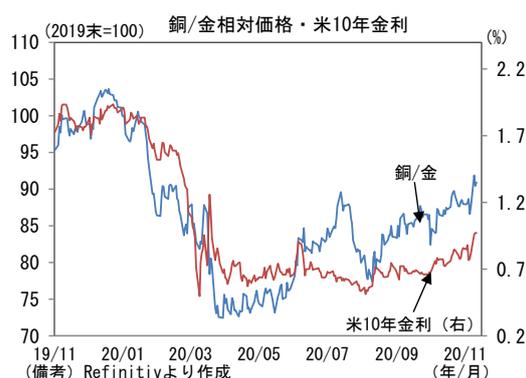
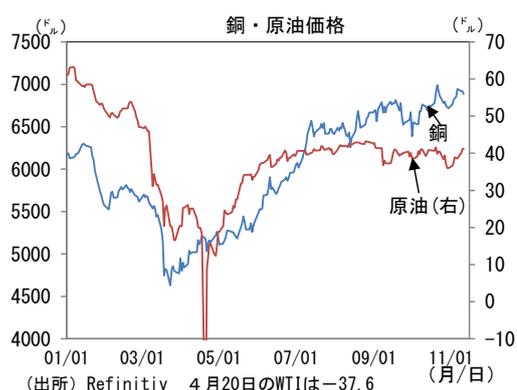
驚くほど底堅い日本株 背景に工作機械受注

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:03-5221-4523)

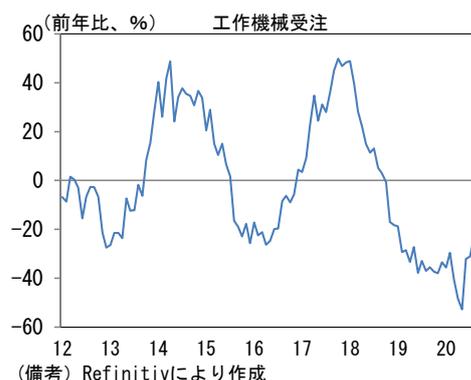
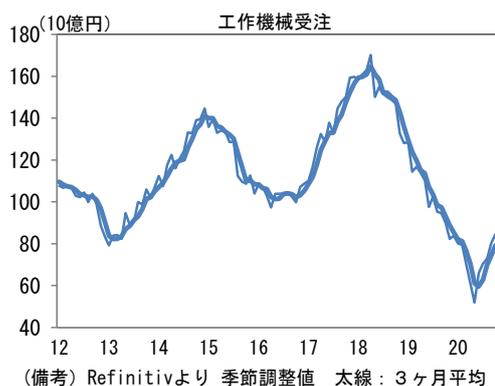
- ・日経平均は先行き12ヶ月24,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利下で資産購入を継続するだろう。

< #工作機械受注 #海外設備投資 #景気先行指数 #株価と連動性 >

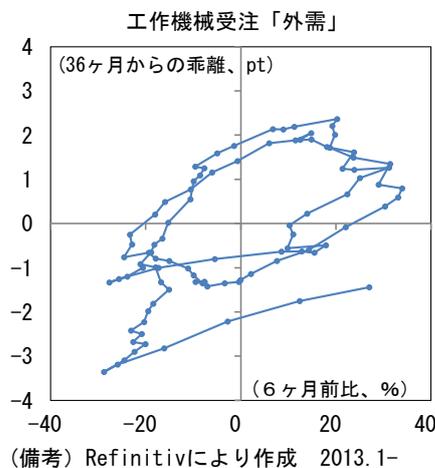
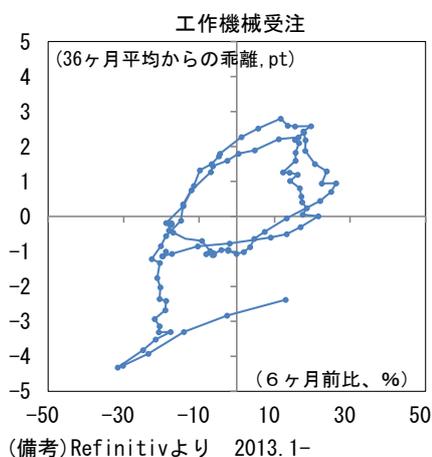
- ・前日の米国株はまちまち。NYダウは▲0.1%、S&P500は+0.8%、NASDAQは+2.0%で引け。ワクチン開発の進捗を受けて売り込まれていた大型ハイテク株が買い戻された一方、ワクチン開発に対する期待で上昇してきた銘柄群は利益確定売りが優勢。VIXは23.5へと低下。重要な経済指標の公表はなし。要人発言は、ラガルドECB総裁が10月末の理事会で予告していた12月理事会の追加緩和について①大規模な資産購入と②銀行への低利融資(TLTRO)が「主な手段になる」と発言。
- ・米債市場は休場。為替(G10通貨)はUSDがやや強め。USD/JPYは105半ば、EUR/USDは1.17後半へと小幅に水準を切り下げた。コモディティはWTI原油が41.5ドル(+0.1ドル)と概ね横ばい、銅は6885.0ドル(▲47.0ドル)へと下落。金は1861.6ドル(▲14.8ドル)へと下落。安全資産「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格(銅/金)は上昇。

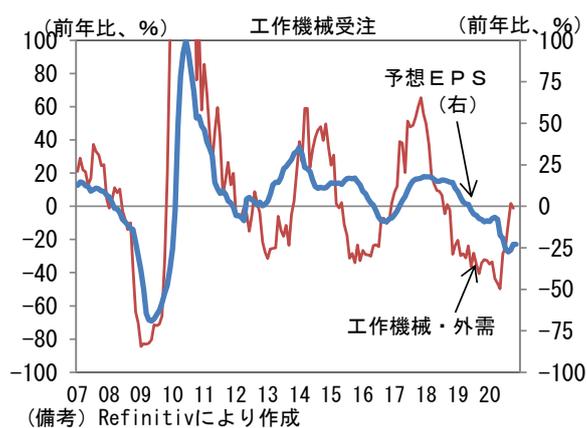


- ・ **10月工作機械受注**は国内外における設備投資回復を示唆。これまでのところコロナ禍のリバウンドは、政策支援に支えられた個人消費が中心であったが、ここへ来て企業の慎重姿勢が和らぎ、設備投資も復調しつつあるようだ。世界景気の先行指標として有用な日本の工作機械受注は前年比▲5.0%へと下落幅縮小。5月の▲52.8%をボトムに回復基調が鮮明。国内向けが▲13.6%まで持ち直したほか、海外向けが▲1.1%と前年比フラット圏で推移。筆者作成の季節調整値は全体が前月比+5.2%、国内向けが+11.1%、海外向けが+0.8%であった。



- ・ 国別・需要者別詳細は確報を待つ必要がある。ただ、9月までの傾向から判断すると中国向けが牽引したとみられる。前年比伸び率は90%近い増加を示し、海外向け受注の4割近くを占めていた。米国向けは前年比15%減程度となお弱さが残るものの、最近の好調な自動車販売等から判断すると一段の回復が期待できる。国内向けを業種別にみると、電気機械や精密機械が底堅く、自動車や一般機械も減少幅を縮小しつつある。
- ・ 縦軸に36ヶ月平均からの乖離（≒水準）、横軸に6ヶ月前比（≒トレンド）をとった循環図は4-6月期にかけて大きく脱線した後、10月は外需に牽引され、右下領域に前進した。国内向けを含めた受注全体も改善傾向は明確であり、設備投資の復調を示唆しているようにみえる。この指標は株式市場との関連も強く、予想EPS（≒株価）と一定の関係性を有する。目下の株高を巡っては、実体経済の回復を伴っていないとの評価も多いが、こうした景気先行指標は改善傾向にある。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

